

日本看護歴史学会 會報

日本看護
歴史学会
第51号
2009年1月15日



2009年年頭所感 日本看護歴史学会創立20周年記念事業の 成果を未来へ繋げよう

日本看護歴史学会理事長 芳賀佐和子

昨年の米国大統領選によって初の黒人大統領オバマ氏の誕生を耳にした時、歴史はその時代に生きた人々によって創られるということを実感したのは私だけではないと感じています。

さて、日本看護歴史学会は、今年23回の学術集会を迎えようとしています。昨年は、学会創立20周年記念事業として行った「看護歴史研究雑誌文献目録」が完成し、著書も出版されました。

「看護歴史研究雑誌文献目録」は『日本看護歴史学会誌』の2008年3月（第21号）に掲載されていますが、文献数は、1945年～2005年の60年間の文献2400件で、キーワード分類は主題としているテーマにそって約100項目におよんでいます。この文献収録の作業は、4年にわたったと聞いています。歴史研究の第一歩である十分な史料の収集にあたって、この「看護歴史研究雑誌文献目録」が活用され、今後の研究に寄与することを期待したいと思います。そして、史料を社会全体の歴史の流れの中に位置づけ、批判と探求を重ねていってこそ問題意識を明確にすることができるのではないかと考えます。

もうひとつの事業である、著書『日本の看護120年—歴史をつくるあなたへ』が日本看護歴史学会編集で日本看護協会出版会から昨年の11月に発刊されました。この本は川嶋みどり前理事長をはじめ看護歴史学会をリードする理事の方々の監修のもとに執筆され、看護の未来を見据えて、来し方を解明しようとする皆様の熱い思いと努力



が詰まっています。その視点は、日本の看護120年の「いま」をみつめ、そこに至る過程を看護の草創期から1948年の保健婦助産婦看護婦法制定までの60年とそれ以後の60年として著され

ています。取りあげている主題は看護師の生活と仕事、保健医療制度と看護、看護教育の変遷、疾患とテクノロジーの変化と看護、外国看護の移入、看護の学術団体、災害と看護活動、戦争と看護活動など看護の歩みにとって興味深いことばかりです。特に、保助看護成立後の60年を「いま」につなげるように執筆されていることは、誰もが「これから」を展望するときの貴重な資料になるのではないかと感じます。そして、近現代史を学ぶことは看護の未来を築きあげる力になると思います。

以上の二つの事業の完成は、20年という本学会の積み重ねの上に完成した貴重なものです。今後の看護史の研究に繋げていきたいと考えます。

私は、第20回の学術集会を開催させていただきましたが、その時のシンポジウム「歴史研究の可能性」で講師の先生の発言であった—看護歴史学会が、専門職集団内部の正史から自立した「学」としての「課題」を設定しつつ批判的観点を維持し続けていこうとするのか、見守っていきたい—という言葉が新年に噛み締めています。

皆様、今年も楽しく元気に看護歴史を学んでいきましょう。

日本看護歴史学会 第22回学術集会を終えて

第22回学術集會長 丸山マサ美 (九州大学大学院医学研究院保健学部門)

九州大学医学部百年講堂において開催されました第22回日本看護歴史学会は、参加者191名(両日)盛況のうちに幕を閉じました。

旧帝國大学時代から100年余、歴史ある九州大学看護学校誕生の地、医学部百年講堂において、近代看護が医学の発展とともに歩いて来た軌跡を確認しつつ、「未来への看護」「医療専門職者のエトス」を模索する学術集會を企画しました。

格調高い特別講演「医の心・看護の心(井口潔九州大学名誉教授)」、「歴史の証人(前田マスヨ東海大学名誉顧問)」・教育講演「ナイチンゲール看護論の継承と発展(薄井坦子宮崎県立看護大学学長)」は、夢の実現であり、会場は感動に包まれました。

初日、各会場では、活気あふれる研究発表(口演・示説)が繰り広げられ、「一般演題：発表時間25分(質疑応答含む)は適切である」とのご意見で、プログラムに沿った円滑な進行でした。

2日目の交流セッションにおいては、研究推進委員会(草刈淳子先生・氏家幸子先生)による「看護歴史研究の今後の課題」、「水俣病から生命・看護を考える(担当：名原壽子先生)」「女性の権利に関するナイチンゲールの見解(話題提供：佐々木秀美先生)」「地方における看護教育史研究(2)一青森県における旧制度最後の看護婦養成(話題提供：大串靖子先生他)」「九州における男性看護職の過去・現在・未来(話題提供：山崎裕二先生)」が企画され、地方における歴史研究活動の活性化および若手研究者と専門家の交流の場として、研究活動の発展につながりました。

第22回学術集會は、「九州大会を成功させましよう」をスローガンに、福岡県看護協会、日本医史学会、九州大学久保千春病院長・中畑高子看護



部長、耳鼻咽喉科小宗静男教授、言語文化研究院 Michel 教授、加来恒壽部門長他、学術集會賛助団体7部門、企業10社協賛、個人寄付金等々、有形・無形の恩恵を賜り、学術集會成功に「一色一丸」となりました。懇親会における音学研究家前田りり子氏の「フルーツの形態と音の変化の軌跡」に関する講演は、看護の「歴史のバトン」が「未来の看護」へ何を継承すべきであるかを考える時空となり、トラヴェルソの音色による静逸な空気に包まれた会場は、「歴史にみる音楽のethos」と共に「歴史にみる看護のethos」を模索する時空にも思えました。学術集會メインテーマ「歴史の中に生きる看護の心」、学術集會シンボル「神の手(Carl Milles)」のコンセプトは終始一貫しており「よかった」との評価を頂戴し、2006年11月18日発足し、夢中に取り組んで参りました事務局もその大役を終える事ができました。大会終了後のオプションにも、多数のご参加をいただきました。陰となり日向となりご尽力をいただきました皆様に深く感謝いたします。

第22回学術集會収支決算報告書

開催日 2008年8月27、28日

収入の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	備考
学術集會補助金	200,000	200,000	
学術集會参加費	900,000	1,390,000	事前申込 会員 7,000×78人(546,000) 非会員 8,000×12人(96,000) 当日参加 8,000×90人(720,000) 学生 2,000×5人、その他 3,000×6人(28,000)
懇親会参加費	385,000	396,000	5,500×72人
広告・出店協賛費	150,000	210,000	広告6社×10,000、出店5社×20,000 他
寄付	50,000	1,035,000	福岡県看護協会、個人
収入合計	1,685,000	3,231,000	

支出の部

費目	予算額(円)	決算額(円)	備考
会場使用料	250,000	308,250	九大百年講堂
会場設営費	30,000	110,810	看板作製、PC借用
懇親会経費	385,000	505,000	5500×90人分(値引き)
講師謝金	200,000	431,020	講師謝金、交通費等
謝礼・記念品	20,000	311,770	座長、協力機関・関係者
印刷費	250,000	297,360	チラシ・ポスター、封筒、講演集
通信・運搬費	50,000	60,395	2nd アナウンス、講演集送付
当日運営費	200,000	230,580	接待、弁当、人件費等
会議費	50,000	446,850	企画・実行委員会、事務局人件費
事務局費用	50,000	87,954	文具、コピー、通信
会誌編集費	0	220,000	テープ起こし
補助金返済	200,000	200,000	
剰余金	0	21,011	本会へ寄付
支出合計	1,685,000	3,231,000	

日本看護歴史学会第23回学術集会の開催について

学術集会長 内田 郷子

日本看護歴史学会会員の皆様、新しい年をお元気に迎えられたことをお慶び申し上げます。今年の第23回学術集会は、ご案内のとおり、東京築地の聖路加看護大学のミセス・セントジョン・メモリアルホールで開催することになりました。

今年は、皆さまご承知のように近代看護教育を開始してから125年目の歴史ある年にあたります。ことに、戦後の60年の日本の看護の発展・進化は大きく変わり今日の姿になりました。多くの先輩の方々のご活躍により至ったこの道も、当時から理想として取り組まれた全てが、時代の変化や疾病構造の変化、高度の治療技術による変化により、そのまま進んでいるとは言えないところもあります。

現在、医療の現場では、医師不足をはじめ、産科・小児科分野における救急医療体制の未整備、療養や在宅介護の人手不足など様々な問題が山積しています。

今、新たな60年後の看護の進むべき道を考える時、私たちは看護職としての大きな希望と専門性を持ち、地域や医療提供の変化に合わせ求められる看護を追求する必要があります。先人たちの計り知れないエネルギー

のある活動を思い起こす時に、示唆となるのは歴史的な時代の流れと、置かれた環境の中での判断と活躍であります。

今こそ歴史的な事実とその取り組まれた様々な内容を掘り下げて研究する時ではないでしょうか。多くの会員のご参加と研究発表をお待ちしております。

〈プログラムのご案内〉

「戦前戦後の看護の礎—看護教育と実践の発展をさぐる—」をメインテーマとして、多彩なプログラムを準備しました。今につながる戦後の看護の歴史の流れをこの「築地・聖路加」の場所で、ご一緒に、紐解いて見ませんか？ 多くの皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先 事務局

〒104-0044 東京都中央区明石町10-1
聖路加看護大学内 日本看護歴史学会・第23回学術集会事務局

FAX 03 (5550) 2255

e-mail: kangorekishi@slcn.ac.jp

学会HPアドレス <http://jahsn23.umin.jp/>

20日 (木)	9:30~	会場・受付	
	10:05~	会長講演	「聖路加国際病院における看護管理のあゆみ」 内田郷子（聖路加同窓会会長、元聖路加国際病院副院長・総婦長）
	11:00~	教育講演Ⅰ	「聖路加看護大学の歴史」（仮）菱沼典子（聖路加看護大学教授）
	11:40~	懇親会	聖路加看護大学（2階 ラウンジにて）※申込が必要です（参加費2,500円）
	12:50~	研究発表 示説	
	13:40~	特別講演	「アメリカにおける看護と医学の接点の歴史」 日野原重明（聖路加国際病院理事長、聖路加看護学園理事長）
	14:40~	研究発表 口演	
	16:10~	教育講演Ⅱ	「築地にはじまる女子教育」大濱徹也（筑波大学名誉教授）
21日 (金)	9:00~	会場・受付	
	9:20~	総会	
	10:10~	交流セッション	
	11:50~	教育講演Ⅲ	「キリスト教と医療」関 正勝（立教大学名誉教授）
	12:45~	閉会宣言	
	13:00~ 13:30	オプション	聖路加国際病院見学 ※事前申込が必要です（先着30名）。参加費は無料です。

五史合同例会に参加して

平尾真智子

今年度の五史合同例会は2008年12月13日（土）午後2時から順天堂大学で行われました。五史というのは「日本医史学会」「日本歯科医史学会」「日本薬史学会」「日本獣医史学会」「日本看護歴史学会」という医療系の歴史学会のことで、年に一度合同で例会を開催しているものです。本学会は昨年から参加しています。

プログラムは下記のとおりです。各学会の演題は5題であり、1題30分の発表と5分の質疑で進行されました。本学会からは日本赤十字看護大学の川原由佳里理事が発表されました。他学会の会員から質問があり、関心や興味を与えたように見受けられました。医療系の他学会に看護歴史を紹介するよい機会になっていると思われます。今回の発表で特に興味深かったのはキュリー夫人の研究所に留学し、今日ではノーベル賞級の優れた研究を行いながら自身も被爆し帰国後早逝

した日本人山田延男に関する発表で、ご子息によるものでした。

発表会のあとは順天堂大学のレストランで懇親会があり、各学会の代表理事から挨拶が行われました。本学会からは芳賀佐和子理事長が挨拶と学会の紹介を行いました。最後に日本医史学会の酒井シヅ理事長より、医療系歴史学会が相互に交流しお互いの理解を深めていくことの意義についてお話がありなごやかな歓談ののち、閉会となりました。



日本医史学会・日本歯科医史学会 日本薬史学会・日本獣医史学会・日本看護歴史学会 合同12月例会

日 時：平成20年12月13日（土）午後2時より 例会発表
午後5時より 懇親会

場 所：例会発表 順天堂大学医学部9号館2階8番教室
懇親会 レストラン ヒルトップ（順天堂大学付属医院1階エスカレーター横）

研究発表

1. 明治21年磐梯山噴火における災害医療活動…………… 川原由佳里
2. 歯科大学における医療倫理教育…………… 関根 透
3. 馬医の祖“伯楽”と“伯楽鍼経”の展開…………… 亀谷 勉
4. 小島宝素家の医書研究と楊守敬の医書校刊…………… 真柳 誠
5. マリー・キュリー夫人と放射能研究に殉じた最初の日本人研究者山田延男
一日仏修好150周年に因んで…………… 山田 光男

「日本の看護120年 歴史をつくるあなたへ」—発刊の記

川嶋みどり

本学会創設20周年記念事業の一環として企画されていた本書の発刊ができましたことをみなさまとともに喜びたいと思います。120年をめぐっての論議もあることでしょうか、わが国最初のトレンドナース（専門教育修了看護婦）—慈恵、京都、桜井、帝大—誕生の1880年を起点として120年としました。

いち早く本書を手にした方から「120年の歴史がコンパクトに収められているので、学生たちにも喜ばれるだろう」。「途切れることなく『今』のことも書いてあるので、看護学概論で使ったら、看護のことを広く理解できるのではないのでしょうか」。「経時的なできごとの羅列ではなく、焦点化されているのがとても良いと思った」。「あのたくさんの写真！写真だけ眺めてもとても楽しめました。書かれた方々の熱意と楽しさが伝わってくるような本でした」と、会員外の方からの好意的なコメント内容は、何れも本書の特徴を良くつかんで下さっています。

当初、写真集でまとめるはずでしたが、種々の事情（必要な写真の入手困難、販売時の定価の問題など）で、急遽方針変更したた

め、文章としては少々舌足らずになっていることも確かです。執筆者らも、それぞれが抱いていた企画時のイメージから次第に遠のく感じを持ちながらの進行でしたので、戸惑いも多くありました。でも、何時でも「看護」と「歴史」と言う2つのキーワードと、これまでの本学会活動への参加意識が、問題意識をまとめる上での大きな力になったと思います。

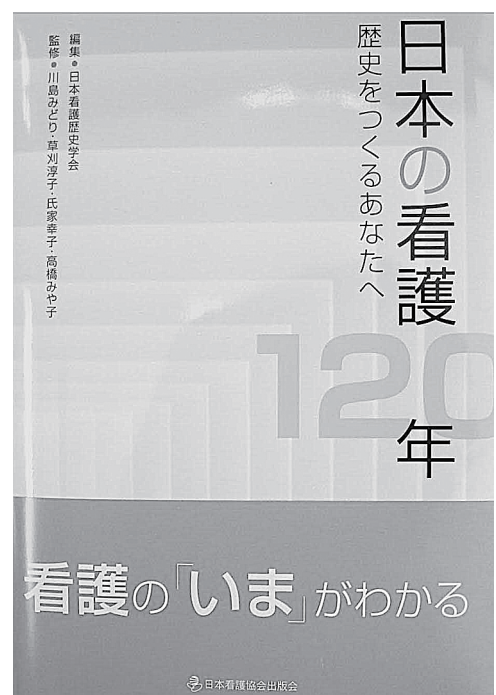
まえがきにも述べましたが、先人たちの足どりや時々の社会現象に思いを馳せながら、歴史は、その時そこに生きていた人々が創るものであることを改めて実感しました。そして、「いま」は過去と未来の架け橋でもあるという意味で、現状認識の大切さがサブテーマを生みました。何よりも本書の特徴は、わが国看護の歩みにインパクトを与えた要因を歴史的な視点でとりあげて焦点化して章立てしたことと、それぞれの「いま」からスタートして過去を辿ったことです。史実やその解釈についての論議を始め種々ご意見を下さることを願います。



～第8期役員～

本学会の新理事及び監事は2008年8月27日の総会で承認されました。

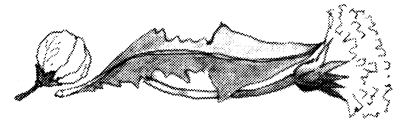
役 割	担 当	氏 名	
理 事	理 事 長	芳賀佐和子	
理 事	副 理 事 長 企 画 ・ 会 報	高橋みや子	
理 事	企 画 ・ 会 報	坪井 良子	
理 事	事 務 局	山崎 裕二	
指名理事		学会事務局（日赤看護大学）会員管理	川原由佳里
理 事		広 報	岡崎寿美子
指名理事		会 計	平尾真智子
指名理事	理 事 長 補 佐 情 報 シ ス テ ム	大石 杉乃	
理 事	編 集	岡山 寧子	
理 事		依田 和美	
理 事	研 究 活 動 推 進	山本 捷子	
理 事		丸山マサ美	
監 事		川島みどり	
監 事		田中 幸子	
協 力 員	情 報 シ ス テ ム	日下 修一	



新入会員紹介(敬称略)

長岡 清子 (08014)	伊沢 礼子 (08018)	中野 厚子 (08022)
新沼 久美 (08015)	王丸才恵子 (08019)	藤下ゆり子 (08023)
山崎 智代 (08016)	安ヶ平伸枝 (08020)	高橋喜代子 (08024)
竹崎登喜江 (08017)	茅野 久美 (08021)	櫻井 浪子 (08025)

* () 内は会員番号
松谷美和子 (08026)



平成20年度会員の動向 (平成20年8月26日理事会報告)

1. 現在会員数 (特別会員1名含む) 333名
2. 入会者数 平成19年度入会者数 66名
平成20年度入会者数 (8/26現在) 12名
3. 退会者数 (会費未納による退会13名含む) 55名
4. 住所不明の会員 12名

お知らせ

■事務局から

事務局の移転: 2008年9月より事務局が日本赤十字看護大学内に移転しました。会員の皆様には、しばらくの間、事務引き継ぎなどのためご迷惑をおかけすると思いますが、よろしく願いいたします。

会費納入のお願い: 2008年度会費 (6000円) をまだ納入されていない会員の方々はすみやかに納入をお願いします。納入されませんと次年度の会報・学会誌等が送付されませんのでご注意ください。郵便振替の口座記号番号は01010-1-52185、加入者名は日本看護歴史学会です。

住所変更の場合: 住所変更届け用紙でご連絡ください。

編集後記

新理事体制で発行する会報第51号です。本号から、企画・編集理事の坪井良子と高橋みや子が担当します。会員の皆様に少しでも多くの情報をお伝えしたいと思い、6面に看護歴史に関連するカレンダーを組み入れました。(そ)

2009年度看護歴史関連カレンダー

- | | |
|-----------|----------------------------------|
| 5月23~24日 | 第7回公衆衛生看護史研究会 (長野県安曇野市保健婦資料館) |
| 6月6・7日 | 第110回日本医史学会 (佐賀市アバンセ) |
| 8月20~21日 | 第23回日本看護歴史学会 (聖路加看護大学) |
| 9月20~21日 | 第19回日本看護学教育学会 (日本赤十字北海道看護大学) |
| 9月24~27日 | 第26回アメリカ看護歴史学会 (ミネソタ州セント・ポールホテル) |
| 10月4日 | 第30回ナイチンゲール研究学会 (学士会館) |
| 11月 | 医療文化史サロン (京都市) |
| 11月27・28日 | 第29回日本看護科学学会 (幕張メッセ) |
| 12月12日 | 五史合同例会 (順天堂大学) |

日本看護歴史学会会報 第51号

企画・編集 高橋みや子 (京都橋大学)
坪井 良子 (国際医療福祉大学大学院)

発行責任者 山崎 裕二 (日本赤十字看護大学)

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒150-0012
東京都渋谷区広尾4-1-3
日本赤十字看護大学
山崎 裕二
TEL 03-3409-0613
e-mail yamazaki@redcross.ac.jp

川原由佳里
TEL 03-3409-0185
FAX 03-3409-0589 (代表)
e-mail kawahara@redcross.ac.jp

学会HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>